

石見銀山の今

石見銀山が閉山して 1 世紀以上が経つが、かつて銀山の行政・商業の中心地であった大森の町は、今も活気に満ちた場所である。鉱山が最も繁栄していた時代に数万人いた人口は現在では 400 人ほどにまで減少してしまったが、ここ数十年、住民たちはさまざまな取り組みによって町の衰退を食い止めることに成功した。

その重要な取り組みのひとつが、開発から保護されている歴史地区にある多くの古い建物の新しい用途を考え出すことである。例えば、1789 年に建てられ、現存する大森最大級の武家屋敷である阿部家住宅は現在、ショップ、カフェ、ギャラリーの「群言堂」が運営するホテルとして使用されている。群言堂本店は近くにある江戸時代（1603～1867 年）の町屋を改装した建物内にあり、訪れた人は衣料品や地元の食材を購入したり、アート作品を鑑賞したり、庭を眺めながらランチや軽食をとることができる。その他の歴史的建造物もオフィスや工房に改装されている。

群言堂や義肢装具メーカーの中村ブレイスといった地元企業は、雇用機会を提供することで大森の復興に貢献している。大森ののんびりとした田舎町の雰囲気や自然が近くにあることが相まって、日本各地からその暮らしを求めて大森に移り住む人々を動かしている。

町の名所としては、1801年に建てられた2階建ての邸宅・熊谷家住宅、江戸時代に銀山とその周辺を監督していた代官所の跡、町とその住民を災難から守ると信じられている城上神社や井戸神社などがある。大森は徒歩でも電動自転車でも簡単に散策できる。銀山公園では電動アシスト付き自転車を貸し出している。